

砂丘地におけるハウスメロンの栽培法

第3報 抑制栽培における品種と播種期

小林 渡・中島 一成・横井 正治*

(青森県農業試験場砂丘分場・*青森県畑作園芸試験場)

The Cultivation Methods of Netted Melon in Plastic Greenhouse in the Sand Dune Region

3. Variety and seeding time for the retarding culture

Wataru KOBAYASHI, Kazushige NAKAJIMA and Shoji YOKOI*

(Sand Dune Branch, Aomori Agricultural Experiment Station・
*Aomori Field Crops and Horticultural Experiment Station)

1 はじめに

青森県におけるメロンの作付面積は、スイカの急激な落ち込みも反映して年々増加傾向にあるため、長期出荷のための作期の拡大が望まれている。そこで、砂丘地におけるハウスメロンの抑制栽培法を確立するため昭和61年から試験を行い、スイカのハウス無加温半促成栽培の後作としてのメロンの品種と播種期について検討した結果について報告する。

2 試験方法

- (1) 試験年次 昭和61～63年
- (2) ハウスの大きさ 間口4.5m, 高さ2.4m, 長さ56m
- (3) 試験条件 表1に示すとおりである。

表1 試験区の構成

年次	品 種	播 種 期 (定植期)	株当り着果数
61	真 珠 100	6月21日 (7月22日)	1, 2
	静みどりB ボ レ ロ	7月2日 (8月2日)	
62	真 珠 100	6月20日 (7月20日)	1, 2
	静みどりB	6月30日 (7月30日)	
63	真 珠 100	6月20日 (7月20日)	1, 2
		6月30日 (7月30日)	1
	静みどりB	6月20日 (7月20日)	1, 2

(4) 耕種概要

- 1) 栽植密度 畦幅225cm, 株間40cm (111株/a)
- 2) 施肥量 (kg/a)

61年	基肥	N:2.0, P ₂ O ₅ :4.0 K ₂ O:2.0,
	追肥	N:1.0, K ₂ O:1.0
62年・63年	基肥	N:0.5, P ₂ O ₅ :1.0 K ₂ O:0.5
	追肥	N:0.3, P ₂ O ₅ :0.1 K ₂ O:0.2

- 3) 仕立て方 半立ち親づる1本仕立て
- 4) かん水 マルチ下ドリップかん水
- 5) 土壌条件 砂丘未熟土
- 6) 前作物 スイカ (4月15日定植, 7月上～中旬収穫)

3 試験結果及び考察

(1) 昭和61年

定植後, 7月第5半旬まで低温となったものの, その後好天が続いたため生育は順調で, 着果も良く, 目標数を着果させることができた。また, 収穫始期は6月21日播種で10月4日, 7月2日播種で10月20日～21日となり, 播種後収穫までの日数は104～122日となったが, 品種や着果数による差はみられなかった。

果実の肥大を一果重でみると, 各品種とも一果着果では大玉であったが, 二果着果では小玉化した。また, 遅い播種期でも小玉化がみられ, 品種別には, 真珠100が大玉でボレロは小玉の傾向にあった。a当り収量は, 品種別には玉のびの良かった真珠100が高かった。また, 播種期では6月21日が, 着果数では二果着果が高かった。

ネットの発生は, 品種別には真珠100が最も良く, 播種期や着果数による差はみられなかった。糖度は, 全般に高かったが, 播種期が遅い場合や二果着果では, やや低くなる傾向がみられた (表2)。

(2) 昭和62年

定植後, 8月第5半旬まで低温, 少照, 多雨が続いたため生育が抑制され, 特に6月30日播種で顕著であった。また, 着果も全般に悪く両品種とも6月20日播種では, 交配期が不順天候時にあたったため, 着果節位が高くなり着果数も少なかった。

果実の肥大は, 前年と同様の傾向であったが全般に玉のびが悪く, a当り収量も前年と同様の傾向であったが, 3か年で最も低収となった。また, 着果が悪かったため, 二果着果でも収量性は低かった。

品質は, 両品種とも一果着果が二果着果より, ネット, 形状, 糖度とも優った。また, 播種期別には, 6月20日播

表2 昭和61年度品種・播種期試験：着果及び収穫物

品 種	播種期	項 目		開花始期 (月・日)	株当り 着果数	収穫始期 (月・日)	一果重 (g)	果形指数 *	a 当り 収 量 (kg/a)	ネ ッ ト **	形 状 **	糖 度 (Brix%)
		着果数										
真 珠 100	6月21日	1	8. 14	0.9	10. 4	2,560	1.06	251	3.5	3.3	15.7	
		2	8. 14	1.9	10. 4	1,770	1.05	366	3.7	3.7	15.5	
	7月2日	1	8. 26	1.0	10. 20	2,070	1.14	230	3.3	3.7	—	
		2	8. 26	2.0	10. 20	1,430	1.11	317	3.5	4.3	14.2	
静みどりB	6月21日	1	8. 14	1.0	10. 4	1,850	1.04	205	2.7	4.2	16.6	
		2	8. 14	2.0	10. 4	1,340	1.02	297	2.7	5.0	16.5	
	7月2日	1	8. 26	1.0	10. 20	1,620	1.00	180	2.8	4.0	16.4	
		2	8. 26	2.0	10. 20	1,080	1.00	240	3.0	4.7	15.0	
ボ レ ロ	6月21日	1	8. 14	1.0	10. 4	1,620	1.03	180	3.3	5.0	16.2	
		2	8. 14	2.0	10. 4	1,200	1.04	266	3.2	4.5	15.6	
	7月2日	1	8. 26	1.0	10. 21	1,560	1.08	173	3.3	4.8	14.2	
		2	8. 26	2.0	10. 21	1,030	1.05	229	3.3	5.0	12.4	

注. *: 果高÷果径, **: 1 (不良)～3 (中)～5 (良)

表3 昭和62年度品種・播種期試験：着果及び収穫物

品 種		播種期	項 目		平 均 着果日 (月・日)	着果節位	株当り 着果数	収穫日 (月・日)	一果重 (g)	果形指 数 *	a当り 収 量 (kg/a)	ネット **	形 状 **	糖 度 (Brix%)
			着果数											
真 珠 100	6月20日	1	8. 16	13.0 ± 0.8	1.0	10. 7	1,917	1.11	213.0	4.4	4.4	13.8		
		2	8. 16	15.0 ± 3.3	1.4	10. 7	1,353	1.07	210.5	3.8	3.9	12.4		
	6月30日	1	8. 27	12.8 ± 3.2	1.0	10. 24	1,356	1.04	150.7	4.4	4.4	12.1		
		2	8. 27	13.8 ± 3.1	1.6	10. 24	1,063	1.05	189.0	3.9	3.9	11.7		
静みどりB	6月20日	1	8. 18	14.0 ± 1.6	1.0	10. 7	1,210	1.04	134.4	4.9	4.4	15.7		
		2	8. 18	14.9 ± 3.6	1.6	10. 7	1,004	1.02	178.5	4.0	3.9	14.7		
	6月30日	1	8. 27	13.8 ± 2.3	1.0	10. 24	930	0.96	103.3	3.8	4.5	12.5		
		2	8. 27	12.4 ± 2.6	1.8	10. 24	824	0.96	164.8	3.6	3.9	12.4		

注. *: 果高÷果径, **: 1 (不良)～3 (中)～5 (良)

種が6月30日播種に比べ糖度が高くなった(表3)。

(3) 昭和63年

定植後、7月いっぱい低温が続いたが、その後、好天に

恵まれたため生育は順調で、着果も良く、ほぼ目標節位に目標数着果できた。

果実の肥大状況は、前年までと同様の傾向であったが、

表4 昭和63年度品種・播種期試験：着果及び収穫物

品 種		項 目		平 均 着果日 (月・日)	着果節位	株当り 着果数	収穫日 (月・日)	一果重 (g)	果形指 数 *	a 当り 収 量 (kg/a)	ネ ッ ト **	形 状 **	糖 度 (Brix%)
		播種期	着果数										
真 珠 100	6 月20日	1	8. 13	13.0 ± 1.2	1.0	10. 1	1,967	1.08	218.5	4.8	4.5	13.7	
		2	8. 14	12.9 ± 0.7	1.8	10. 1	1,305	1.11	260.9	3.4	3.9	13.6	
	6 月30日	1	8. 22	11.8 ± 1.0	1.0	10. 12	1,983	1.11	220.3	4.4	4.6	13.9	
静みどりB	6 月20日	1	8. 16	12.8 ± 2.4	1.0	10. 1	1,321	1.01	146.8	4.5	4.7	12.6	
		2	8. 17	13.3 ± 1.5	2.0	10. 1	965	0.97	214.4	2.9	3.3	11.9	

注. *: 果高÷果径, **: 1 (不良)～3 (中)～5 (良)

玉のびが良かったため、真珠100では一果着果で、一果重が6月30日播種でも6月20日播種とかわらなかった。a当り収量は、収穫果数の多い2果着果の方が、また品種では玉のびの良い真珠100の方が高かった。

ネット、形状は二果着果で劣ったが、品種や播種期による差はみられなかった。また、糖度は、真珠100に比べ静みどりBでやや低かった(表4)。

4 ま と め

着果数は、6月20日播種でも気象条件により2果着果が困難な年もあり、また2果着果では果実の肥大、品質が劣ることから1果着果が適当と考えられ、その播種晩限は6月30日頃と考えられた。また、品種は、果実の肥大性、品質の安定している真珠100が適当と考えられた。